

# 平戸市の財政状況

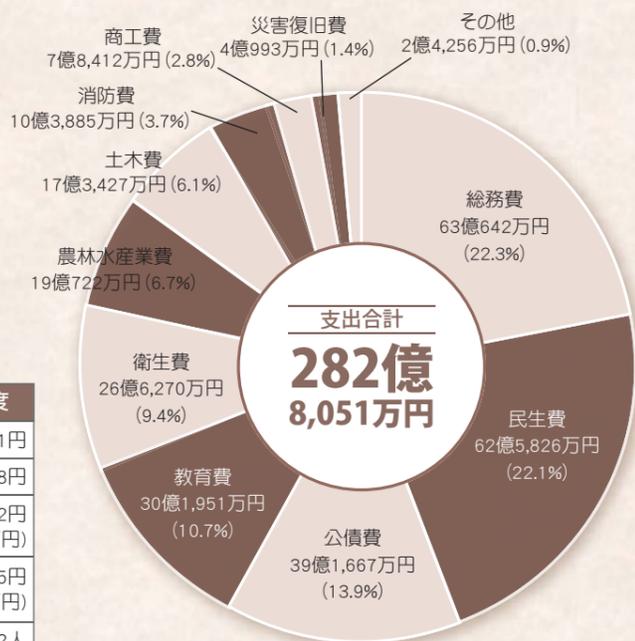


## 一般会計支出

市町村合併後最大

支出は、平成26年度と比較すると、消防庁舎整備や消防防災無線デジタル化整備が終了したことなどにより消防費が約16億円の減と大きく減少した一方で、「やらんば！平戸」応援寄附金（ふるさと納税：約26億円）の増加に伴う積立金や寄附に対する返礼品などの増加により総務費が約15億円の増、将来の負担軽減のための市債の繰上償還（利子軽減額2,226万円）により公債費が約3億円の増など総額で282億8,051万円となり、合併後最大の決算額となりました。

◎支出の目的別内訳グラフ



### ■市民1人当たりの負担とサービスなど

区分	平成27年度	平成26年度
市民1人が負担したお金(市税)	8万2,966円	8万2,231円
市から受けた公共サービス(支出合計)	85万7,375円	83万8,358円
貯金現在高(基金) (下段は決算額)	33万7,478円 (111億3,172万円)	27万4,302円 (92億887万円)
借金現在高(市債) (下段は決算額)	87万710円 (287億2,039万円)	86万4,605円 (290億2,651万円)
人口(各年度3月31日現在)	32,985人	33,572人

## 平成27年度に支出した市民1人当たりの額

85万7,375円を支出

※平成28年3月31日現在の人口で計算

昨年度支出した額を、分野別に市民1人当たりの額で算出してみました。

<p><b>総務費</b></p> <p>19万1,191円 (対前年度4万6,880円の増)</p> <p>地域振興やふるさと納税の返礼品など</p>	<p><b>民生費</b></p> <p>18万9,730円 (対前年度3,056円の増)</p> <p>高齢者や児童の福祉など</p>	<p><b>公債費</b></p> <p>11万8,741円 (対前年度1万658円の増)</p> <p>借入金の返済</p>	<p><b>教育費</b></p> <p>9万1,542円 (対前年度2,922円の増)</p> <p>学校や図書館、文化振興など</p>	<p><b>衛生費</b></p> <p>8万725円 (対前年度6,087円の増)</p> <p>ごみ・し尿処理や病気予防など</p>
<p><b>農林水産業費</b></p> <p>5万7,821円 (対前年度1,122円の増)</p> <p>農林水産業の振興など</p>	<p><b>土木費</b></p> <p>5万2,578円 (対前年度845円の減)</p> <p>道路、住宅の整備など</p>	<p><b>消防費</b></p> <p>3万1,495円 (対前年度4万6,118円の減)</p> <p>消防、防災対策など</p>	<p><b>商工費</b></p> <p>2万3,772円 (対前年度8,608円の増)</p> <p>商工、観光の振興など</p>	<p><b>その他</b></p> <p>1万9,780円 (対前年度1万3,353円の減)</p> <p>議会運営、災害復旧など</p>

市では、毎年2回「市の財政状況」を公表しています。

今回は、平成27年度決算の概要と平成28年度上半期の執行状況についてお知らせします。

■お問い合わせ 企画財政課財政班 ☎内線2344

## 決算報告

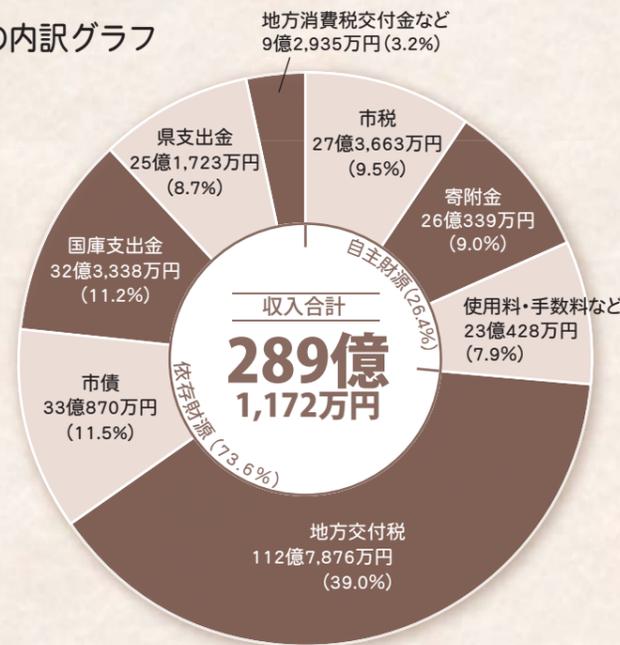
4億9,506万円の黒字決算

平成27年度の一般会計の決算額は、収入が289億1,172万円、支出が282億8,051万円となり、平成28年度への繰越事業の財源を差し引いた実質収支は、4億9,506万円の黒字となりました。

◎決算の状況(一般会計)

区分	平成27年度	平成26年度	対前年度増減額
収入総額	289億1,172万円	284億3,159万円	4億8,013万円
支出総額	282億8,051万円	281億4,534万円	1億3,517万円
差引額	6億3,121万円	2億8,625万円	3億4,496万円
翌年度に繰越すべき財源	1億3,615万円	1億7,146万円	△3,531万円
実質収支	4億9,506万円	1億1,479万円	3億8,027万円

◎収入の内訳グラフ



## 一般会計収入

市の自主財源は26.4%

平成26年度と比較すると大型建設事業に係る市債の発行額は減少したものの、昨年に引き続き「やらんば！平戸」応援寄附金の大幅な増加などにより、総額で4億8,013万円、率で1.7%の増加となりました。収入のうち、市で調達できる「自主財源」の割合は、前述した寄附金の伸びなどにより6.0ポイント増加し26.4%となりました。

### ■目的税の使いみち

区分	決算額
市債償還(都市計画関係)	4,631万円
合計	4,631万円

区分	決算額
入湯税	
鉾泉源の保護管理施設整備	782万円
消防施設等整備	292万円
観光施設整備	192万円
観光振興	1,354万円
合計	2,620万円

### ■市税の内訳

区分	金額	増減率
市民税	11億1,212万円	△1.68
固定資産税	12億2,731万円	△0.4
軽自動車税	9,852万円	4.08
市たばこ税	2億2,617万円	△1.48
都市計画税	4,631万円	△6.4
入湯税	2,620万円	10.61
合計	27億3,663万円	△0.87



## その他の主要な事業

～4つの基本目標以外の事業～



大島支所庁舎・大島村公民館整備事業  
・・・1億4,639万円

※総事業費 4億6,126万円(平成26～28年度)

大島支所庁舎及び大島村離島開発総合センターの老朽に伴い、支所機能(1階)と公民館機能(2階)を併せた複合施設を整備しました。



壱部浦住宅建設事業・・・1億8,479万円

※総事業費 2億8,906万円(平成25～28年度)

旧壱部浦アパートの老朽に伴う建て替えを行いました。

ふるさと応援寄附金推進事業

・・・8億874万円

ふるさと納税のPRや寄附者に対するお礼の特典の発送などを行いました。また、平成27年度の寄附額は25億9,978万円(全国7位)となりました。

ノールトワイケルハウト市姉妹都市交流事業

・・・341万円

姉妹都市オランダ王国ノールトワイケルハウト市と相互に高校生の短期留学を行い、異文化体験を通じた青少年の交流を行いました。

地域購買力向上事業・・・9,154万円

国の交付金を活用し、20%のプレミアムがついた「ひらどプレミアム商品券」を発行し、市内の購買力向上を図りました。

## 子育て支援

～ひとをそだてるプロジェクト～



保育料の軽減・・・8,741万円

教育・保育施設における保育料を国の基準より平均25%引き下げ、多子世帯の小3以下から数えて3子目以降無料とし、保護者の経済的負担の軽減を図りました。

福祉医療給付事業・・・4,885万円

乳幼児福祉医療の対象年齢を拡大し、平成27年度から新たに小・中学生を含めた子どもなどの医療費助成を行い、保護者の経済的負担の軽減を図りました。

ICT教育推進整備事業・・・6,653万円

タブレットパソコンや電子黒板機能付プロジェクターなどを整備し、教育環境の充実を図りました。

## 雇用の促進

～しごとをふやすプロジェクト～



創業支援対策事業・・・1億1,319万円

創業セミナーや個別相談会の開催、設備投資などへの補助を行い、意欲ある創業者を支援し、新たな産業の育成や雇用の創出に努めました。

地域情報化基盤整備事業・・・1,550万円

平戸北部地域において超高速ブロードバンドサービスの整備を行いました。今後各地域において整備を進めていきます。

空き店舗等活用促進事業・・・705万円

空き店舗を活用して出店する事業者へ補助を行い、商店街のにぎわい創出を図りました。

## 定住・移住の促進

～まちをつくるプロジェクト～



移住定住環境整備事業・・・1,902万円

移住者や定住者の新規住宅取得などに対する補助を行いました。

在宅当番医制整備事業・・・403万円

休日の初期救急医療体制を整え、安心して生活できるまちづくりに努めました。

太陽光発電システム設置促進事業・・・415万円

住宅用太陽光発電システムの設置費用の助成を行い、再生可能エネルギーの普及を図りました。

## 産業の振興

～しごとをのぼすプロジェクト～



平戸市もうかる農業実現支援事業・・・1,775万円

新たな園芸品目の産地づくりに向けた事業に対する補助や、繁殖雌牛や肥育素牛の導入など、もうかる農業に取り組む農業者への支援を行いました。

平戸ブランド戦略的プロモーション事業・・・2,500万円

平戸産品の認知度向上と販路・取引の拡大のため、首都圏をはじめ関西圏、福岡都市圏において積極的なプロモーション活動を行いました。

平戸観光応援隊設置運営事業・・・650万円

SNSによる観光情報の拡散や、旅行会社との共同企画「平戸で遊ぼう」など、応援隊による観光誘客の拡大を図りました。

# 平成27年度に

# 実施した主要な事業

昨年度もさまざまな事業に取り組みました。今回は、多くの事業の中から、特に主要な事業をご紹介します。

平戸市は、平成27年度から平成31年度までの5年間を計画期間とした「平戸市総合戦略」を策定し、人口減少抑制と地方創生を図るため、「しごと」「ひと」「まち」をキーワードとした4つの基本目標を設定し、その目標の達成に向け各種事業を推進しています。

◎一般会計(収入)

区分	予算現額	収入済額
市 税	26億8,537万円	14億2,840万円
地方交付税	103億9,000万円	72億1,873万円
分担金・負担金	2億3,748万円	6,594万円
国庫支出金	29億7,720万円	7億 916万円
県支出金	25億8,041万円	1億6,446万円
寄 附 金	20億5,021万円	3億8,348万円
市 債	30億 790万円	0円
そ の 他	41億 651万円	11億3,832万円
収入合計	280億3,508万円	111億 849万円

◎一般会計(支出)

区分	予算現額	支出済額
総 務 費	65億4,022万円	11億3,112万円
民 生 費	69億1,607万円	25億9,840万円
衛 生 費	30億3,305万円	11億9,047万円
農林水産業費	21億6,967万円	4億2,904万円
土 木 費	18億9,996万円	3億1,794万円
教 育 費	19億7,744万円	6億9,949万円
公 債 費	31億5,097万円	15億9,078万円
そ の 他	23億4,770万円	9億2,998万円
支出合計	280億3,508万円	88億8,722万円

◎特別会計

区分	予算現額	収入済額	支出済額
国民健康保険(事業勘定)	59億 316万円	20億7,260万円	24億9,320万円
国民健康保険(度島直診勘定)	6,717万円	932万円	2,794万円
国民健康保険(大島直診勘定)	1億1,698万円	1,923万円	4,464万円
後期高齢者医療	4億1,182万円	1億1,623万円	1億1,759万円
介護保険(保険事業勘定)	44億4,181万円	17億6,107万円	17億4,135万円
介護保険(サービス事業勘定)	3,394万円	1,195万円	1,396万円
農業集落排水事業	1,340万円	82万円	503万円
宅地開発事業	450万円	372万円	8万円
あづち大島いさりびの里事業	1,250万円	4万円	500万円
電気事業	1,640万円	705万円	434万円
駐車場事業	440万円	216万円	202万円
工業団地事業	1億9,470万円	0円	2万円

◎企業会計

区分	予算現額	収入済額	支出済額	
水道事業	収益的収支	10億4,369万円	4億5,505万円	1億9,709万円
	資本的収支	9億1,007万円	5,922万円	1億8,001万円
病院事業	収益的収支	24億8,565万円	8億6,901万円	9億4,785万円
	資本的収支	2億5,862万円	5,283万円	1億 160万円
交通船事業	収益的収支	2億 119万円	6,927万円	5,940万円
	資本的収支	2,638万円	0円	1,314万円

※収益的収支・・・経営活動によって発生するすべての収入と支出  
 ※資本的収支・・・施設の建設改良に関する投資的な収入と支出

◎市債の残高  
(市民1人当たり105万8,150円)

※平成28年9月30日現在人口32,692人で計算

区分	残 高
一般会計	272億6,170万円
水道事業	56億9,912万円
病院事業	13億8,018万円
交通船事業	3,103万円
国民健康保険(直診勘定)	1億1,637万円
農業集落排水事業	8,252万円
電気事業	2,210万円
合 計	345億9,302万円

◎財産の状況

区分	面積・金額
土 地	982万5,068㎡
建 物	25万5,759㎡
有価証券	1,355万円
基 金	118億1,399万円
債 権	4億 714万円
出 資 金	6,468万円
出 捐 金	1億 44万円

◎一時借入金の状況

平成28年9月30日現在は、ありませんでした。

執行状況

平成28年度上半期(4月～9月)の収入および支出の状況

平成28年9月30日現在

※企業会計とは・・・

民間企業と同じようにその仕事自体に収益があり、その収益で支出を賄う仕事をまとめた会計です。

企業会計

水道事業	収益的収支	収入	10億5,217万円
		支出	9億4,480万円
病院事業	収益的収支	収入	24億3,000万円
		支出	23億 9万円
交通船事業	資本的収支	収入	1億8,751万円
		支出	2億5,260万円
交通船事業	収益的収支	収入	2億 233万円
		支出	1億9,627万円
交通船事業	資本的収支	収入	0円
		支出	2,603万円

※収益的収支・・・経営活動によって発生するすべての収入と支出  
 ※資本的収支・・・施設の建設改良に関する投資的な収入と支出

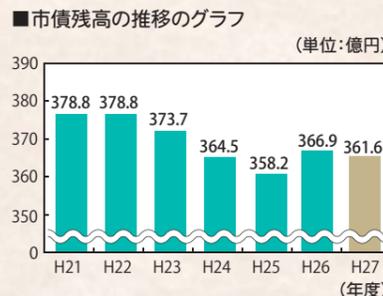
※特別会計とは・・・

国民健康保険は国民健康保険税で、介護保険は介護保険料でといったように、特定の収入で特定の支出を賄う仕事をまとめた会計です。

特別会計

区分	収入	支出
国民健康保険(事業勘定)	59億9,944万円	59億9,606万円
国民健康保険(度島直診勘定)	6,151万円	6,151万円
国民健康保険(大島直診勘定)	1億1,166万円	1億1,166万円
後期高齢者医療	4億 922万円	4億 780万円
介護保険(保険事業勘定)	41億6,212万円	41億 422万円
介護保険(サービス事業勘定)	3,203万円	3,203万円
農業集落排水事業	1,163万円	1,163万円
宅地開発事業	789万円	789万円
あづち大島いさりびの里事業	1,176万円	1,176万円
電気事業	2,006万円	2,006万円
駐車場事業	447万円	442万円
工業団地事業	2,839万円	2,839万円
給与管理	32億 405万円	32億 405万円

市債残高(全会計)



市債残高は5億3千万円の減少

市の借入金である市債の残高は、昨年度大型事業の実施により、一旦増加に転じたものの、近年の継続した繰上償還の実施に伴い、再び減少に転じました。

今後も、計画的な繰上償還の実施によりさらなる財政の健全化に努め、将来の公債費負担の軽減を図ります。

健全化判断比率と資金不足比率

すべてにおいて判断基準内の財政状況

平成19年に制定された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律(財政健全化法)」により、毎年度、健全化判断比率などを算定し、議会に報告するとともに市民の皆さんに公表しています。平成27年度決算に基づく比率(指標)は、前年度と同様にいずれも国の基準(イエローカードとされる早期健全化基準)を下回り、財政状況は、おおむね健全であるといえます。各指標の改善は、平成19年度から実施している借入金(市債)の繰上償還によるところが大きく影響しており、今後も行政改革の取り組みを継続し、引き続き健全な財政運営に努めます。

健全化判断比率	説 明	平成27年度	平成26年度	国の基準	
				早期健全化基準(イエローカード)	財政再生基準(レッドカード)
実質赤字比率	一般会計などの赤字から財政運営の深刻度を見る指標	-	-	12.88%	20.00%
連結実質赤字比率	すべての会計の赤字から財政運営の深刻度を見る指標	-	-	17.88%	30.00%
実質公債費比率	借金の返済額の大きさから資金繰りの危険度を見る指標	7.5%	8.5%	25.0%	35.0%
将来負担比率	市が抱える負債の残高から将来の財政への圧迫度を見る指標	-	7.0%	350.0%	-

※比率が生じない場合は「-」と表示しています。

資金不足比率	説 明	対象会計	平成27年度	平成26年度	国の基準
					経営健全化基準(イエローカード)
資金不足比率	公営企業の資金不足割合から経営状況の深刻度を見る指標	水道事業・病院事業・交通船事業ほか	-	-	20.00%

※いずれの会計も資金不足が生じていないため「-」と表示しています。

財政指標

# 平戸市の財政状況

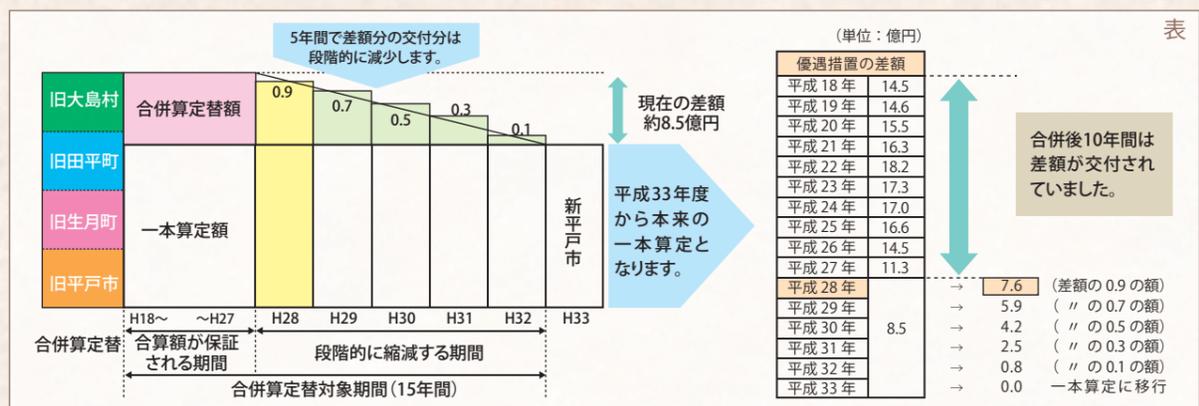


**R** なんて去年までは減らんかったことに今年から減るんですか。

**T** 市町村合併が行われた市町村は、さまざまな経費の節約が可能になるけん、交付税額が減額されるって考えられるじね。

でも、この経費の節減は、合併後すべしいるものばかりじゃなかけん財政支援として合併後10年間は、旧市町村が存在するものとみなして、合算額を下回らないように交付されよじつたじよ。

**R** 優遇措置で、8億5千万円多くもびえたして事ですね。(表参照)



**R** それと、今年で合併から11年目に入りですけど、これから先はずっと減っていくんですか。

**T** ずいとは減って行かんけど、平成28年度から段階的に5年間(平成32年度まで)かけてその差額が減額され、平成33年度には差額がもらえなくなるじね。(表参照)

**平成33年度へ向けての取り組み**

**R** 平成33年度には今より8億5千万円交付されなくなり財政状況が厳しくなるじねとすね。

平戸市のこれからの財政状況は大丈夫ですか。

**T** 平戸市の歳入の多くは、普通交付税に頼っている状況で、この削減は市民生活にも影響を与えるんで、事務費や人件費などを中心に削減を行いますじよ。

優遇措置が終了した平成33年度以降も、これまでどおり市民サービス の質と満足度を高めていくために、より一層収入を増やしたり、事務の

※1 掲載している普通交付税の差額は、臨時財政対策債を含んでおり、平成28年は調整額を含んでいます。

※2 交付税額の段階的縮減の説明のため、他の要因(市町村の姿の変化に対応した交付税算定(平成29年~平成30年)による影響額や、人口急減補正の影響額)については、平成28年度算定ベースで掲載しています。



やり方や事業を見直したりして頑張っていくかんばたいね。

**R** わかりました。よし、後半も頑張れるような気がしてきました。絶対1点決めてきます。

今日は職員の職場対抗のサッカー大会が開催されています。試合はハーフタイム中です。何やら新人の「リョウマ君(R)」と先輩の「タクヤ君(T)」がベンチで話し込んでいます。

会話の内容は「ひらどの交付税」の話のようです。日ごろ、なかなか聞き慣れない「普通交付税」について先輩職員が教えています。少し耳を傾けてみましょう。



**T** あい、そがん落ち込んでどうしたかかって。さっきシュート外したって気にするなよ。

**R** いや違うんですよ、先輩! 私の相談聞いてくれますか。

**T** あいあいどうしたとや、恋の相普通交付税って何?

談か。恋の相談ならおれより他の人がよかじやない。

**R** ……いやさ。

**T** で、どんな相談や。

**R** 今、自分は市税の担当をしよるとすけど、今月号の広報を見たら平成28年度から普通交付税が減っていくて書いてあったじよ。

市税を担当しよる私としては、気になって気になって。先ほどのシュートもそれで外してしまっただんすよ。平成33年には8億5千万円も少なくなるて書いてありましたけど、これからの平戸市の収入は大丈夫なんですか。このままじゃ後半がんばれませんよ。

**T** 普通交付税のことね。

**R** だいたい何ですか普通交付税って市税じゃないんですよ。国からくるお金のことですか。

**T** そうそう、普通交付税は全国どこに住んでいても一定水準の行政サービスを受けられるように、市町村間



の税収格差を調整するよう国から交付されるじよ。

この交付税は国が徴収した所得税、法人税、酒税、消費税の一部と地方 法人税の全額で賄われていて、一定の基準で国から市町村へ交付して もらいよるじよ。

**T** なるほど、東京でも、北海道でも、平戸でも全国で同じサービスを受けられるようになってるんですね。

# ひらどの交付税のはなし

## 「普通交付税」について